

Q-6 SSHを意識した授業とは、どのようなものなのでしょうか？

本校のSSHの研究開発課題は「文理を融合し、科学的な関心と思考力を高める課題解決型学習の開発に関する実践的研究」です。課題解決型学習は、探究の時間だけでなく、各教科の授業でも実施されるものです。また、本校は文理融合基礎枠での認定を受けていますので、理系科目だけでなく、文系科目においても科学的な関心と思考力を高める実践が求められます。

そのような背景があり、このBS版では、各教科における探究的な学びの充実に関する情報提供をしてきました。今年度着任された先生方の中には、「SSHを意識した授業」はどういったことをすればよいのか、不安に感じている方もいらっしゃるかもしれません。しかし、日々の授業の中でも、少しの工夫でSSHらしさを取り入れることができます。本号では、そのポイントを整理してみます。

① 大小の「問い」で授業をつくる

探究は問いから始まります。単元等を包括する大きな問いによって、生徒はその問いに答えるように学んでいきます。また、各授業の中で小さな問いを繰り返すことで、教科の本質的な部分に触れていきます。

㊦ 単元や内容のまとまりで、大きな「問い」をつくる

(問いの例)	【現代の国語】	時や文化を超えた他者との関係性の構築は、私達に何をもたらすか？
	【公 共】	青年期はアイデンティティの確立などの自己形成の時期といえるか？
	【数 学 B】	局所的な変化を定式化することが大域的な変化を把握するための方法になり得るか？
	【生 物 基 礎】	私達の共通点と相違点はどのように作り出されているか？
	【体 育】	コミュニケーションに基づく行動選択は、空間を意識したプレー実現にどう影響するか？
	【音 楽 I】	伝統と革新は互いの価値が独立していて、常に高め合う関係にあるといえるか？
	【美 術 I】	社会に発信されたデザインは、受け手にコミュニケーションや革新をもたらすか？
	【英コミュI】	Can Wasei-eigo be considered a creative form of expression that reflects Japanese culture?
	【家 庭 基 礎】	家族・家庭の生活を支える福祉や社会的支援はどうあるべきか？
	【情 報 I】	情報技術の発展は、私達の生活と精神にどのような影響を与えたか？

㊦ 授業の中で、「なぜそうなるのか」、「他の考え方はあるか」といった問いを少し加える

② 「見方・考え方が表出する」場面をつくる

生徒が自分の考えを表現する機会を設けることも重要です。たとえば、

- ・ 一度、自分の考えを一言で書く
- ・ ペアや小グループで理由を説明し合う
- ・ 異なる意見を比べて共通点や違いを整理する

といった小さな活動でも、学びは探究的になります。これらは、BS版 No.3 で紹介した「学びのアクション」にもつながるものです。

③ 「つながり」を意識する

学習内容を個別に扱うのではなく、共通点は何か、どのような関係があるかといった視点で整理することで、理解はより深まります。こうした見方は、BS版 No.5 で紹介した「学びのレンズ」にも関わるものです。

こうした「つながり」は教科の中はもちろん、他教科との間にも見られます。たとえば、

- 「根拠をもとに説明する」 → 数学における証明、理科における実験考察、国語における評論読解
- 「条件を整理して考える」 → 情報におけるアルゴリズム設計、家庭科における生活設計、体育における状況判断やプレーの選択
- 「複数の視点から捉える」 → 社会における多面的考察、英語における意見表現、芸術における解釈

というように、各教科でつながる考え方が必ずあります。それが、教科等横断的な学びの種にもなります。

このように、各教科に共通する「問い」・「見方・考え方」・「つながり」を意識することが、SSHを意識した授業づくりにつながっていきます。